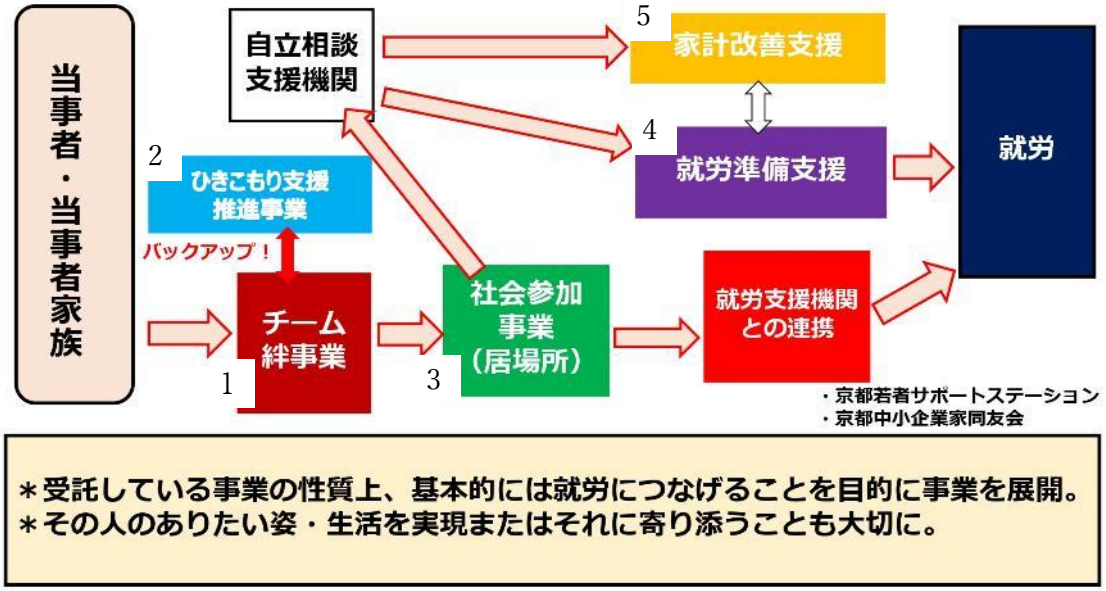
# 令和７年度乙訓ももの活動報告

乙訓ももは受託事業などを連動させてひきこもり状態にある方々やそのご家族、生活困窮状態にある方々の支援を行っており、その中で乙訓絆サークルに参加いただいている様々な社会資源と連携しチーム支援を実践しています。同時に受託事業を連動させることで市町とも連携を深めています。




## 1. 令和７年度 ひきこもり相談・訪問支援「チーム絆」地域推進業務（乙訓地域）

### （ア）相談・訪問支援業務

#### ① 被支援者（継続）の状況

人数 52 名（令和 7 年度新規 29 名）

#### ② 把握対象者年齢構成

合計 163 名

支援継続または中断しているｹｰｽ

10 代 11 名、20 代 22 名 、30 代 28 名 、40 代 25 名、50 代 14 名、 60・70 代 4 名

#### ③ 男女比

男性 128 名、女性 35 名

#### ④ 地域別

長岡京市 79 名、向日市 38 名、大山崎町 24 名、京都市 17 名、その他 5 名

#### ⑤ 総括

今年度は昨年度と比較し把握人数は 136 名から今年度 163 名、支援継続人数も 45 名から 52 名と増加した。就労や復学、障害福祉サービス、他機関へつなぎ終結した人数は 6 名だが新規相談件数は 29 名となっており、こちらも大きく増加した。また、終結したが再び相談に来所されたり支援を入れるケースが相次いでおり、再支援の必要性とつながり直しやすさの重要性も増している。

今年度も新型コロナ禍による影響はいまだ続いており、10 代の相談が大きく増加 し 30 歳代、40 歳代についても相談が増えた。
地域住民や地域包括支援センターやケアマネージャーからの相談や紹介によりつながるケースも依然として多く、様々な入口から相談が舞い込んでいる。同時に 40 歳以上の当事者には家族相談は行うことができても本人に会えることは以前難しく、年々家族や当事者が高齢化しており家庭内で大きな出来事がないとほとんどの ケースが動くことはない。
10 代から 30 代の若い年齢層の当事者は家族からの相談を介して社会参加や就労支援につながりやすく段階的に本人のニーズにマッチした支援を行うと、障害福祉サービスの利用も含めて就労に結びつくことが多い。10 代の相談が増えていることは不登校状態あるいは中学校卒業後にひきこもり状態になる問題が鮮明になっており、教育との連携、学習会の開催や家族会などサポートに向けた取り組みが必要である。

**（イ）地域ネットワークの構築・運営業務**

**① 地域ネットワーク連絡会議 ～ 乙訓絆サークル（全 2 回）**

今年度も乙訓地域でのひきこもり支援ネットワーク会議「乙訓絆サークル」を 2 回開催し、2 回合計で 166 名の様々な社会資源の方にご参加いただくことができたと同時に、乙訓周辺地域（京都市・高槻市・茨木市など）の社会資源の方にも中域連携を意識して参加いただくことができ参加団体数も増加した。高槻市のひきこもり支援ネットワークらいむらいとにも参加いただき、ネットワーク同士のつながりも生まれた。この「乙訓絆サークル」で具体的にケースワークすることが定番化し、今後はこのネットワークで支援の質の高いサポートと当事者にマッチした支援を行えるようにさらに拡充していきたい。



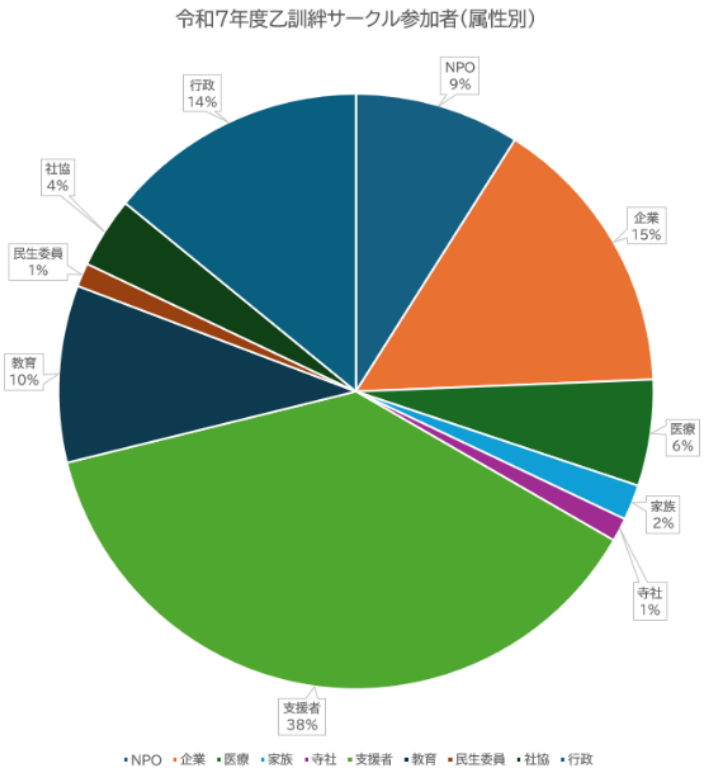







2025年8月28日　第6回　内容報告ブログ

2026年2月5日　第7回　内容報告ブログ




また「乙訓絆サークル」で企業の参加を増やし、出口支援(社会参加・就労)の充実を図ることで、当事者や当事者家族に先の見える具体的なロードマップを提示することが可能になった。これにより相談の継続数を増やすことができ、支援の可能性を感じるとともに具体的なケースワークも提供しやすくなると捉えている。




**② ひきこもりに関する学習会(全４回)**

分野を超えた支援者の方々や地域住民の方々を含めて、ひきこもり状態にある方やそのご家族への支援についての理解を深めるため、ひきこもりに関する学習会を 4 回開催した。今年度は当事者との関係性をテーマに、下記の要領で開催した。

・ 第 1 回　2025 年　5 月 22 日

テーマ「当事者との関係性づくりを考える」

講師　京都府家庭支援総合センター　廣田　和之さん

内容報告ブログ





・ 第 2 回　2025 年　7 月 24 日

テーマ「専門性より関係性の築き方」

講師　NPO 法人コミュニティ・スペース sacula　木村友香理さん

内容報告ブログ





・ 第 3 回　2025 年　11 月 6 日

テーマ「板垣の、まぁ、みなさん、聞いてください」

講師　京都コレカラ代表　板垣修平さん

内容報告ブログ





・ 第 4 回　2026 年　1 月 15 日

テーマ「困難な状態にいる人との関係づくり」

NPO 法人 happiness 宇野明香さん

内容報告ブログ





**③ その他**

今年度も長岡京市と「とりこぼさない支援体制整備事業（重層的支援体制整備事業）」で、参加支援事業・地域づくり事業の交流会の企画・運営にコアメンバーとして携わらせていただき、ひきこもり支援では役割分担をしてケースワークした。 また、就労準備支援事業などの受託事業を連動させることで一般就労あるいは福祉就労した当事者が5名（先の数字に含まれる）となり、ひきこもり支援推進事業で専門相談会を月1回開催するなど緊密な連携を行うことができた。

**（ウ）今後の課題**

乙訓地域二市一町では向日市・大山崎町においてひきこもり支援について温度差や予算の差があり自治体が足並みを揃えることは難しい中でどのように連携しながら現場で支援を行うかが引き続きの課題として存在している。同時に乙訓ももにおいては相談者の男性比率が依然として高く、女性の対象者の把握とアプローチ方法が課題である。

総じて、一般就労などにより終結するサポートを行ってはいるものの新規相談は増え続けており、特に10代の対象者とその家族への適切なサポートが急務である。そのために新たな社会資源とのつながりを増やし、適切な支援スキルを身に着けることを目指したい。一方で70－40、80－50世帯のひきこもり当事者には支援の手が届きにくく家族の協力も得られにくいのが実情で、二市一町の行政（特に向日市）がどのようにアクションしていくのか、そのアクションとどのように連携していくかが大きな課題である。

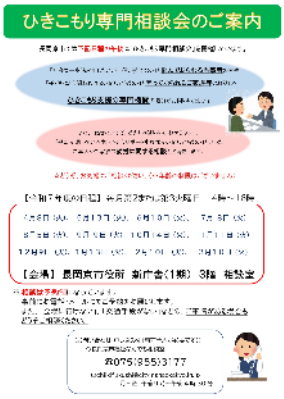
**乙訓地域市町村別の推計結果**　同年度の人口統計から乙訓ももで推計

| | | 全国 | 長岡京市 | 向日市 | 大山崎町 | 乙訓全域 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| H27内閣府調査 | 15～39歳 | 3445万人 | 21,133 | 14,156 | 4,076 | 39,365 |
| | 1.57% | 54.1万人 | **332** | **222** | **64** | **618** |
| H30内閣府調査 | 40～64歳 | 4235万人 | 26,728 | 19,392 | 4,819 | 50,939 |
| | 1.45% | 61.3万人 | **388** | **281** | **70** | **739** |
| 総数 | | 115.4万人 | **719** | **503** | **134** | **1,357** |

**乙訓ももの把握数**　令和7年1月31日時点の把握数　**163名（実支援52名）**

## 2. 長岡京市ひきこもり支援推進事業

### （ア）長岡京市ひきこもり専門相談会の開催




長岡京市から委託を受け、同市健康福祉部地域福祉連携室に設置されたひきこもり相談窓口である「福祉なんでも相談室」と協働して、長岡京市役所の相談室にて、月1回のひきこもり専門相談会を行った。

相談会での相談件数とそれをきっかけに繋がった方の相談件数を合わせて合計 27 件、ケース会議などの調整 10 件、事例検討や関係機関からの相談件数は 4 件であった。

1．ひきこもり専門相談会等　相談件数

| | 月別状況 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 相談会 | 相談件数 | 1 | 0 | 1 | 0 | 2 | 1 | 0 | 3 | 2 | 2 | 1 | 2 | 15件 |
| 相談会以外 | 相談件数数 | 0 | 1 | 1 | 1 | 0 | 1 | 1 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 12件 |

合計　27件

2．ネットワークづくりにかかる会議や調整件数

| 月別状況 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 会議や調整件数 | 1 | 1 | 0 | 2 | 1 | 1 | 2 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 10件 |

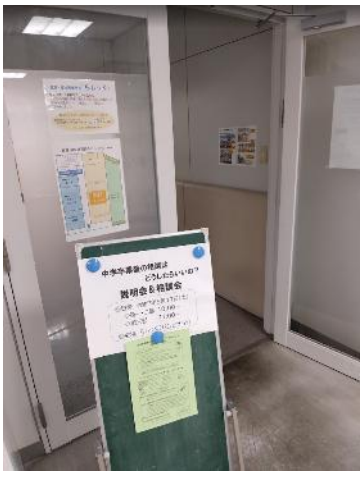
3．事例検討会およびひきこもり支援にかかる関係機関からの相談件数

| 月別状況 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 相談件数 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 4件 |

### （イ）中学卒業後の相談先にかかる説明会・相談会の開催

5 月 17 日と 11 月 1 日、卒業を迎える中学 3 年生とその保護者を対象に、教育・福祉連携拠点「らしっく」にて「中学卒業後の相談はどうしたらいいの？説明会＆相談会」を開催した。8 世帯 9 名の保護者が来場され、卒業後の居場所・相談先として、京都府健康福祉部家庭支援課早期支援特別班や長岡京市内で定期的に居場所を開催されている「フェリーチェ」、長岡京市福祉なんでも相談室、乙訓ももの活動紹介を行った。





## 3. 令和７年度京都府ひきこもり状態にある者のための社会参加支援事業

チーム絆事業の相談等で繋がった当事者に対し、面談を行った上でニーズに合わせたプログラム（ボードゲームやテレビゲーム大会、創作活動）や地域の方を招いたワークショップを開催し、地域の社会資源と協働しながら、社会に出るきっかけや居場所づくりに取り組んだ。また中小企業の経営者との交流会も開催した。

### （ア）居場所づくり

居場所に通所可能になった方々に対して、毎週火曜日に複数人で楽しむことのできるボードゲームやテレビゲームなどを提供し、他者との交流がスムーズに行えるよう支援した。

実施場所　乙訓もも活動拠点（長岡京市開田 2-4-19）など

開催日数　41 日

延参加人数　当事者 228 名









### （イ）地域の方を講師に招いたワークショップの開催

実施場所　長岡京市中央生涯学習学センターなど

開催日数　8 日

延参加人数　当事者 59 名、家族 4 名



2025 年 5 月 20 日　シルクプリント印刷体験



2025 年 6 月 17 日　アロマバスボムづくり



2025 年 7 月 15 日　魔法の杖づくり



2025 年 9 月 16 日　コーヒーブレンド体験



2025 年 10 月 7 日　農業体験



2025 年 12 月 16 日　クリスマスリース作り



2026 年 1 月 20 日　整理整頓術のワークショップ



2026 年 2 月 17 日　ロールオンアロマのワークショップ

**（ウ）中小企業経営者との交流会**

開催日数　1 日

延参加人数　当事者 6 名

NPO 法人いっぽねっと、京都若者サポートステーション、京都市社会福祉協議会よりそい・つなぐ相談窓口、京都中小企業家同友会などと協働の取り組み。



2025 年 11 月 4 日いっぽねっと企業交流会

**（エ）ひきこもり状態が改善した具体的な事例**

20 代女性の O さんは、メンタルを崩して前職を退職後、5 月から乙訓ももの居場所と就労準備支援事業を利用するようになり、外出する頻度が上がり生活リズムを作ることができた。夏以降は NPO 法人の運営する子ども食堂やカフェでの実習を継続し、現在では京都若者サポステに登録して再就職に向けた就職活動を始めている。

1 人暮らしが長く、他者との交流する場を求めていた 40 代男性の T さんは、長岡京市の自立相談支援機関を通じて、乙訓ももの居場所の利用につながりボードゲームなどを通じて他の利用者と交流を重ね、継続して利用されるようになった。並行して障害福祉サービスの利用条件を満たして就労継続支援 B 型事業所を週 4 日利用するようになった。

## ４．就労準備支援事業（長岡京市、大山崎町）

### （ア）事業概要

令和 7 年度、本事業では「社会とのつながりの再構築」を中核に据え、長岡京市、大山崎町の自立支援相談機関（長岡京市福祉なんでも相談室、乙訓保健所福祉室）と連携し、同市町内の就労に困難を抱える対象者に対し、個々のペースに合わせた段階的な支援を実施した。なお、本事業は生活困窮者自立支援制度の一つだが、ひきこもり状態にあった方などについても将来困窮する可能性がある当事者として対象者に含める運用を行っていただいている。

特に今年度は、地域住民や地元企業との接点を増やすことで、参加者が「街の一員」として自信を回復できる機会の創出に注力した。

### （イ）支援実績・活動内容

毎週月・水・金曜日 10 時から 16 時まで就労の準備のためのプログラムを提供した。
本年度の支援対象者は延べ 619 名（実数 11 名）となり、以下の 3 つのステップに沿ってプログラムを展開した。

日常生活自立支援 ： JR 長岡京駅周辺の拠点を活用し、定期的な通所を通じた生活リズムの確立を支援した。

社会生活自立支援 ： 日々の就労プログラムの中での朝礼・昼礼やチームで取り組む作業（清掃や駄菓子の袋詰め作業）、出店活動や企業見学での対外的な地域の人々との関わりを通して、対人スキルの向上を図った。

就労自立支援 ： 連携先企業や NPO 法人での就労実習、出店活動への参加、履歴書添削などの具体的な就職支援を実施した。より就労に近い支援を行っている京都若者サポートステーションや NPO 法人いっぽねっと、就労移行支援事業所等の団体と連携した就労支援を行った。

［プログラムごとの活動風景］

① 作業プログラム

地域の企業から受注した委託作業に取り組んだ。効率や速さ、丁寧さをもって品質を維持しながら作業することを学んでいる。

・ 線香の箱作り･軽量･箱詰め作業

折れやすい線香を規定の重量になるように計り、専用箱に詰めていく。地元の企業から受注している。



・ 網戸のコーナーパッドの製作

複数の工程を指先を使い作業する。集中力や仕組みを理解しながら作業することを習得している。自立して作業できる仕組みを構築して支援。



・ 箸の袋入れ作業

京都市内の居酒屋チェーンで使用される箸を箸袋に入れる作業。企業との連携によるプログラム。取り組んだ仕事が実際に店舗で使用される。



・ 支援拠点に併設されている駄菓子屋店内の清掃プログラム





② 就労体験

・ 駄菓子の袋詰め作業

併設されている法人の駄菓子店での就労体験の様子。近隣の子供会や小学校 PTA 等から袋詰め注文があった際に、袋詰め作業を行った。左は商品の必要数を確認して仕分け、値札を除去し、丁寧に袋詰めを行っている様子。




・ 置き駄菓子の運営業務

地域の学童保育と連携し、置き駄菓子の仕組みを作りメンバーが駄菓子の補充や納品に取り組んだ。



・ PC 作業

Office ソフトの習得、ハローワーク求人のインターネット検索、履歴書作成など。




③ 特別プログラム

・ イベント出店

焼きイモや出張駄菓子販売を通じ、設営から接客撤収までをプログラム化。段取り良く作業することやコミュニケーションスキルの習得を行なった。




・ 自主イベントの取組み

拠点の駄菓子屋店頭で 5 月～2 月まで毎月末の金曜日に地域の方の生産物などを仕入れて販売。焼きイモも提供した。準備・設営・接客・金銭授受・売り上げ管理・撤収に取り組んだ。





怪談を話すことが得意なメンバーがコミュニケーションスキルの習得のため相談者などの前で階段を披露するイベントを他のメンバーと企画し開催した。





乙訓ももが開催した学習会やネットワーク会議などの準備・受付・撤収に取り組んだ。



イラストを描くのが得意なメンバーにプロのコーヒー豆焙煎士と協働で創ったコーヒーのドリップパックのパッケージ用のイラストを製作してもらい販売した。







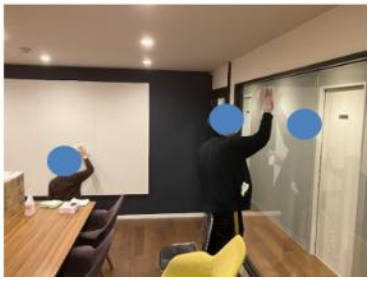

・ 施設外就労プログラム

株式会社 shioriya 本部に伺い、店舗スタッフのユニフォームの選別作業や商談室などの　清掃に取り組んだ。









・ 企業見学

地域の就労支援ネットワークを活用し、株式会社洛西紙工等企業 5 事業所をを見学した。



株式会社洛西紙工



株式会社山元塗装工業





ロビンガーデン

株式会社タナカテック





株式会社 JPF





・ 就労実習

地域の就労支援ネットワークなどを活用し製造作業などの実習を 3 名につき行った。

株式会社タナカテック（2 か月間）







就労継続支援 A 型事業所プレイヤーズ京都（2 か月間）



NPO 法人ハピネス（計 9 か月）

**（ウ）本年度の成果 ～ 利用者 11名のうち 5 名が就職**

令和 7 年度は、長岡京市、大山崎町の利用者合計 11 名で延利用日数は 619 日であった。長岡京市の利用者 9 名のうち、3 名が一般企業へ就労し、1 名が就労継続支援 A 型事業所で雇用された。大山崎町の利用者 2 名のうち 1 名が就労継続支援 A 型事業所で雇用された。

## 5. 家計改善支援事業（長岡京市）

### （ア）事業概要

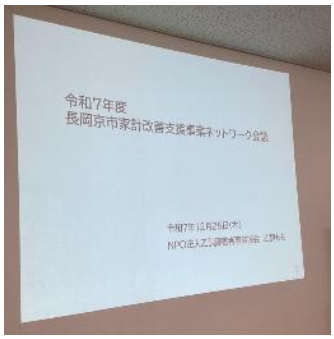
長岡京市より委託を受け、生活困窮者自立支援制度の中の家計改善支援事業を令和 2 年度からファイナンシャルプランナー2 級技能士と社会福祉士の資格を持つ相談員が継続して行っている。同事業は、経済的な困窮状態にある相談者に対し、単なる金銭的援助に留まらず、家計の「見える化」を通じて根本的な生活再建を支援することを目的としている。
令和 7 年度は、物価高騰の影響が長期化する中、潜在的な生活困窮層への早期介入と、多職種連携による包括的なサポート体制の強化に注力した。

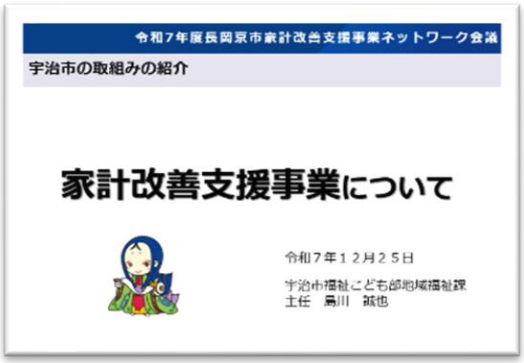



### （イ）支援実績

本年度の相談支援件数は延べ 50 件（実数 6 名）となった。支援対象者ごとにインテーク・アセスメントシート、相談時家計表、家計計画表、キャッシュフロー表、家計再生プラン（家計支援計画）、評価シート（以下「家計再生プラン等」という。）を作成し、家計の視点からの情報提供や専門的助言等により、家計管理能力向上のための支援を行った。

また、宇治市福祉こども部地域福祉課で家計改善支援事業も担当されている島川誠也主任を招き、多機関の支援者、専門家の方々と支援ネットワーク会議を行って、支援の客観化を図るとともに、長岡京市社会福祉協議会の生活福祉資金貸付け業務や日常生活支援事業との連携を図った。




### （ウ）本年度の成果

老齢の母と同居する 30 代の O さんは精神疾患のためアルバイトをやめてから世帯全体が困窮するようになって社協の食料支援を複数回利用するに至っていたが、本事業の支援によって家計の見える化を図り、キャッシュフローを共有することで、家計を改善するために就労する意欲が芽生えた。現在では就労継続支援 B 型事業所を週 5 日利用しつつ、一般就労を目指している。

40 代の I さんは、制度理解が苦手で、将来の人生設計に悩んでいたが、家計改善支援を利用することで現在の家計収支の実態を理解することができた。就労に向けた意欲も出て、支援員と就労移行支援事業所に見学に行き、現在では同事業所に週 5 日通所し、一般就労を目指している。